

# 研究支援制度・環境

学生の研究力の向上や経済的支援を目的とした制度や環境を設けています。

2010年度より進めている大学院改革の流れを受け、2011年度には新たなプログラムを導入。

今後も、大学院全体のさらなる高度化を推進していきます。

## 博士論文出版助成金制度

本大学院の博士後期課程に在籍し、博士の学位を取得した方、または課程によらない論文博士を対象とした制度です。学位取得後5年以内の方を対象とします。優れた博士論文を単行本として出版する費用について、1人につき100万円を上限とし、実費を支給します。

## チューター制度

本大学院に在籍する学生の教育研究を支援するため、上級生がチューター役となり、研修生や研究生などを含む原則留学生の下級生に対し、研究指導をはじめ大学院における生活全般にわたる指導を行うプログラムです。チューターに採用された学生には、大学が指導料（報酬）を支給します。

## 諸外国語による論文等校閲補助制度

大学院では、国内外の学会発表や論文を、英語をはじめとする諸外国語で執筆する場合があります。その際、学生が外国語で執筆した論文などの校閲を第三者に依頼できる制度です。校閲費用について一定金額を助成します（1申請につき、上限10万円まで実費支給）。

## 海外における研究活動補助制度

海外で開催される学会や研究会などで発表するために渡航する場合、航空運賃、宿泊費、現地交通費などの多額の費用が必要となります。公募により審査を経た上で、それら費用について一定金額を助成します（上限10万円まで実費支給）。

## ティーチング・アシスタント制度(T・A)

大学院の学生が、大学の教育現場でアシスタントを務める制度です。学生への助言を行ったり、授業・実習・実験などの補助業務を行います。大学院学生が将来、教育・研究に携わる時に備え、経験を積む機会を提供するものです。また、T・Aに採用された学生には、業務に対する報酬を支給します。

## リサーチ・アシスタント制度(R・A)

法政大学が行う研究・教育プロジェクトに理工系研究科の学生が参加し、アシスタント業務に従事する制度です。博士後期課程の学生を対象としています。大学院学生の研究遂行能力を養うと共に、大学の研究体制の充実を図るものです。また、R・Aに採用された学生には、業務に対する報酬を支給します。

## ユビキタス環境／「スタジオHAL」

情報科学研究科、デザイン工学研究科、理工学研究科では、希望する学生全員に無償でノートパソコンを貸与します。さらに、ほぼ全学に設置している無線LANアクセスポイントを活用し、学内でいつでもどこでもネットワークにアクセスできる環境を整えています。自宅や外出先などの学外でも、学内と同様にネットワークやコンテンツを活用できる環境の整備を進めています。

また、市ヶ谷田町校舎には、授業のためのユビキタス環境として「スタジオHAL」を設置。学生や教員がノートパソコンやICTツールを最大限活用できるようにデザインしています。ICTツールやモバイル端末の活用だけでなく、マルチスクリーンと無線LANにより、目的に応じてコンテンツを投影し、ブレインストーミング、グループミーティング、リサーチ情報共有、高精細コンテンツの活用に対応した学習が可能です。



## Voice | 多くの研究活動を、多彩なバックアップ制度で支えています。



私が利用した制度  
法政大学100周年記念大学院特別奨学金

経済学研究科 経済学専攻  
修士課程 2014年度修了  
LIU XUANTONG (リュウ ケントウ)

### 留学生が学問を追究できる各種支援制度が魅力

法政大学大学院の学費は他の私立大学院に比べてリーズナブルなだけでなく、それでも留学生の私の場合、1年目は、生活費の工面と学業の両立に苦勞しました。ですから、修士論文を仕上げると2年目には研究の時間をより多く確保するため、「法政大学100周年記念大学院特別奨学金」を申請し、30万円を給付していただきました。これは経済的事情が考慮されますが、成績や研究態度も問われます。ですので、どの講義の成績もA以上の評価をキープし、また、興味のある他の研究科の講義を受講したり、ERP(英語強化プログラム)に参加するなど、積極的な姿勢を心がけました。

他にも、文部科学省による外国人留学生対象の学習奨励費なども活用していますが、法政大学大学院には留学生が学業に専念するための補助金・奨学金制度が充実しています。将来は、この恵まれた環境で得られた研究成果を生かし、まずは日本で就職し、母国との架け橋になりたいと考えています。



私が利用した制度  
海外における研究活動補助制度  
博士後期課程研究助成金制度  
チューター制度

公共政策研究科 公共政策学専攻  
博士後期課程 在学中  
伊藤 雅文

### 院生を対象とした数々の研究助成制度活用で夢を実現！

私は自動車メーカーに在職しながら、大学院では「自動車産業政策」を研究しています。そのため、グローバルな視点で業界全体を概観するため、先進国、途上国問わず年に数度、各国を調査訪問しています。すでに修士課程では4回、博士後期課程では5回、「海外における研究活動補助制度」を活用しました。また、研究活動は地道な資料集めが必要なため、「博士後期課程研究助成金制度(A)」を利用して調査費や経費を捻出しています。この制度はさらに実績が評価されると、「博士後期課程研究助成金制度(B)」を利用でき、助成金を重複支給してもらうことも可能です。その他、後輩院生を指導する「チューター制度」を利用し、留学生への論文指導や日常生活のアドバイスを渡し、互いの異文化コミュニケーションを楽しんでいます。博士後期課程は研究者への登竜門ですが、私の場合、仕事関連領域の研究を進めることで、業務の専門性を深化させることと同時に、スペシャリストとして社会貢献を目指しています。進学を考えている皆様、是非、法政大学大学院でご自分の夢を叶えてみてはいかがでしょうか？



私が利用した制度  
海外における研究活動補助制度

経営学研究科 経営学専攻  
修士課程 2014年度修了  
寺師 宗近

### 他校と比較して圧倒的に低額な学費が魅力

実務を生かせる分野でのスキルアップを目指し、国際経営を学ぶために大学院進学を決心しましたが、法政大学大学院に決めた理由は、何と言っても「良心的な金額の学費」です。私の専攻の場合、法政は他の私立大学院と比較すると1/3程度、国公立大並みの金額で済み、圧倒的にリーズナブルです。

さらにありがたいのは、それに対して得られる学びの質が非常にハイレベルである点です。ハーバード大学で教鞭を執った経験をお持ちの洞口治夫教授の講義を受講し、論理構成力や説得力、英語読解力が格段にアップしたと実感しています。

進学する大学院をこれから決める方は、まずは情報を収集、比較検討し、最後は人に流されずに自分で決断してほしいと思います。私自身、先入観や思い込みにとらわれず、情報を広範囲から得たおかげで、法政大学大学院を選ぶことができたと考えています。



私が利用した制度  
大学院学生海外留学補助金

キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻  
修士課程 2013年度修了  
小關 悠里

### 補助金のおかげで念願の海外留学も実現

私は、グローバルな活動を希望される日本の方々との海外の橋渡しをするため、2011年に社団法人を設立したのですが、海外インターンシップ先を紹介する中で、多くの学生や社会人の方々の人生の岐路に立ち会いました。その際に、より専門的かつ効果的なアドバイスができるようになりたいと思い、キャリアデザイン学を専攻しました。

在学中には、海外の人事制度や国際経営を直接学ぶためにカリフォルニア大学アーバイン校に留学しましたが、その際に利用したのが「大学院学生海外留学補助金」です。150万円を補助していただいたことにより海外で自身の知見を深めることができ、現在は新たな職場でさらなるステップアップを実現できています。

この補助金を利用する際に注意が必要なのは、計画的な単位取得、そして、補助金申請時に留学先の大学から入学許可が下りていないといけない点です。TOEIC®やTOEFL®のスコア取得なども含め、事前の準備には万全を期す必要がありますが、大変ありがたい制度です。